

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●理事会	1
●理事長から／委員会報告	2
●「出版社商品説明会」及び「懇親パーティー」	3
●フランクフルトブックフェア(FBF)2009の感想	4
●フランクフルト・ブックフェア2009 見聞録	5
●新連載・楽譜のオハナシ	6

理事会

日時：2009年9月3日（木）

1. 委員会報告

・総務委員会

事務局から予算状況の説明があり、了承された。またイベント等の補助金がある場合は入・出金別に並記するように指示した。補助金額が適正かどうか検証するため。

今回のセミナーは国会図書館の見学で交渉を進める。（担当：仲理事）

・会報・HP・ダイレクトリー委員会

会報通巻500号の記念号を発行した。名刺広告には多数の応募をいただき感謝している。

HPの「お知らせ」を内容に合わせ「会員のページ」に変更した。また「理事長から」と「今後の予定」の2欄を新設した。

・事業委員会

TIBFではワゴン台数の減少にもかかわらず、昨年並みの売り上げがあったとの報告があった。

・レクリエーション委員会

今後の予定としては11月にボーリング大会を行う。ま

た新年賀詞交歓会を1月8日（金）にプレスクラブで行う。

2. 関西パーティー

・セミナー（商品説明会）をCambridge U.P., Springer, Wileyの3社で行う。

・懇親会は一昨年同様、40名程度の参加が見込まれる。

3. 理事長から

・先月関西地区の緑書房、カイガイ、至成堂の3社を訪問した。各社とも顧客との信頼関係の強さを感じた。東京ではすでに数社を訪問し、来週も予定している。

・理事会は年4回の定例会を行いその都度定例会の内容をHPに掲載する。また必要があれば臨時会を開く。

・フランクフルトBFでは協会のダイレクトリーを阪神ACのブースに送るので、参加各社は配布に協力頂きたい。

・今回の役員選挙から新理事長は総会開催の少なくとも6ヶ月前に選出されるように定款の変更を提案したい。理由は新理事長選出の時点で予算が決定されているので、新規の事業を一切行うことが不可能なため。

日時：2009年11月5日（木）

1. 総務委員会の役割分担（再）

総務委員会の中に総務Gを作り、文化・教育G、渉外Gと役割を分け、通常は各グループ単位で活動し、案件に依っては各グループが協力体制を組む。（長谷川委員長による説明があった）

2. セミナー等の進捗状況

・関西パーティーは盛況だったが、出版社セミナーでの時間配分に課題が残る。また会費についていろいろ意見があるので、次回までに纏める。

＊当催事については来年も実施する方向で、詳細を詰めてゆくこととした。

・講演会「進む電子ブック化と崩れる出版業界の旧秩序」は講師の都合によりキャンセル。

・ケンブリッジ大学出版局の講演会も都合により中止。

・国立国会図書館の見学会は今月中旬に事務局から案内

を出す。先着15名。

実施日：12月18日（水）午後14：30～16：00
（集合：14：00）詳細は追って連絡）

3. 理事長から

・新年賀詞交歓会にはOBの参加も認めたい。会員各社の判断で案内をして貰うこととした。

・協会OBへの会員資格付与（希望者）について
→総務委員会で検討することとした。

・フランクフルトBFでは、協会ダイレクトリーを100部ほど配布した。またブースを出さない会員のためにカフェのテーブルを確保し、商談・休憩に利用して貰ったかどうか。

→費用、会場等の情報を集めてから検討することとした。

理事長から

理事長を拝命して早4ヶ月が過ぎました。理事長の職務は多岐に亘り、未だその全貌を把握することはできておりません。昨今のJAIPは会員の減少と活動の沈静化が続いており、少しでもこの問題の解決の突破口を開くべく、まず、委員会の再編と各委員長の名指推薦を行いました。先般就任の挨拶でも申しあげた通り、JAIPの存続目的を会員相互の親睦を深めることに重点を置きつつ、更に当業界に関する国内外の各種情報の提供、教育・啓蒙活動を行う所存でございます。今回の委員会再編により、会員各位が有意な活躍が出来るよう理事会、及び委員会で発案し、これらを実現して行きたいと思っております。

次に第一四半期と第二四半期の事業活動について報告致します。

(1) 7月17日、プレスクラブにおいてe-Bookセミナー「Eブックビジネスの展望と将来」を開催致しました。ご多忙の折70名以上の方に参加頂き大盛況でした。当日は引き続き同クラブに於いて「サマーパーティー」が開催され、40社180名以上の方に出席頂き皆様に懇親懇談を頂いた次第です。

(2) 8月10日、レクリエーション委員会によるボーリング大会を開催し若手を中心に25名の方に参加頂きまし

た。今後も若い方に積極的に参加頂き情報交換と懇親を深められることを期待しております。

(3) 8月から11月の第二四半期の活動について。

9月25日に関西地区（大阪マルビル第一ホテル）にて、セミナー（外国出版社による商品説明会）と懇親パーティーを開催いたしました。

次に、文化・厚生・教育グループが主催し国立国会図書館の見学会を12月18日に予定しております。

今後このような催事につきましては、協会も予算逼迫の折、極力費用を切り詰めて運営を行う予定ですが、会員の皆様方には幾分かの費用負担をお願いすることもあるかと思えます。その節はご理解ご協力をお願い申し上げます。

(4) 各委員会を開催いたします。

これから年末に向け、関係各社におきましては極めて多忙の時期を迎えるものと察します。政権交代による事業活動への懸念、出口の見えない不況等問題は山積しておりますが、会員の皆様方におかれましては、健康に留意され難局を乗り切って行かれますことを願っております。

以上

委員会報告 <レクリエーション委員会>

第6回 ボウリング大会

上位の成績は下記の通り

順位	氏名(社名)	総得点	1G	2G
優勝	平野 覚(ユサコ)	323	145	178
準優勝	寺尾雅人(日本出版貿易)	321	176	145
3位	高橋直樹(東京ブックランド)	318	166	152
4位	斉藤美穂(絵本の家)	304	106	158
5位	戸島健太郎(東京ブックランド)	293	151	142
6位	尾崎繁美(エイビスブックセールズ)	279	93	146
7位	植原英男(日本出版貿易)	272	141	131
8位	柏木美香(阪神エアカーゴ)	268	122	106
9位	小向奈保子(絵本の家)	263	95	128
10位	柿沼大輔(ユサコ)	254	124	130

2009年8月11日(火)

会場：東京ドームボウリングセンター

参加者：25名(9社) 男性16名 女性9名

競技：2Gのトータルピン

(女性は20ピン/ゲームのハンディキャップあり)



ハイスコア男性/G 平野 覚 178

ハイスコア女性/G 斉藤美穂 158

関西地区

「出版社商品説明会」及び「懇親パーティー」

去る9月25日(金)、大阪マルビル 大阪第一ホテルおきまして、JAIP 総務委員会主催による「出版社商品説明会(セミナー)」、及びレクリエーション委員会主催の「関西懇親パーティー」を開催いたしました。その概要を次の通り報告いたします。

《出版社商品説明会(セミナー)、16:00～17:30》

講演者(講演順)

1. ワイリー・ジャパン

長谷 整 様(セールス&マーケティング ディレクター)

2. シュブリンガー・ジャパン(株)

安達 次朗様(セールス&マーケティング マネージャー)

3. (株)ケンブリッジユニバーシティプレスジャパン

平野 圭子様(ジェネラルマネージャー)

関西地区開催でセミナーを開催するのは今回が初めてです。最初に山川理事長による挨拶と「これからの海外出版物市場について」のキーノートスピーチが行われました。続いて、日本に事務所を開いておられる前記海外出版社から、夫々の出版社(者)の歴史、主要とする事業、世界的にみたオフィスの活動拠点、従業員数、売上高(分野別、地域別売上高)、さらに主要商品の説明等をスライドを使って紹介頂きました。

今回講演を頂きました出版社は、いずれもが長年の歴史と実績を誇っているところです。

当日は30名弱の方に参加頂きました。参加された方々は普段の業務を離れ、あたかも西洋の歴史、文化史の教養講座を聴講するかのような充実感を味わったとの感想を述べられていました。

《関西懇親パーティー、18:00～20:00》

今年の懇親パーティーは、レクリエーション委員会の和田委員の進行により、山川理事長の挨拶に続き、(有)緑書房の丹羽晴彦社長に乾杯の音頭をお願いし、懇談・情報交換に入りました。今回は関西、関東地区から19社48名程の方に出席頂きました。普段はお会いできない東西会員の名刺交換、情報交換が活発に行われ、最後にレクリエーション委員会の鶴委員長の中締めにより、盛況のうちに終了することができました。また、関西地区の会員の方々からは、次年度以降も斯様な催事を望む声も多数お聞きしております。

今回のセミナー、懇親会開催にあたっては山川理事長、総務委員会、レクリエーション委員会メンバー、並びに事務局に並々ならぬご協力を頂き無事終了することができましたことを報告させていただきます。

(総務委員会:長谷川)



関西パーティー

公 告 2009年10月1日

会員代表者変更(敬称略)

日本出版貿易(株)

新代表者 取締役 宮川 修

旧代表者 相談役 中林三十三

社名変更(敬称略)

株式会社 阪急阪神エクスプレス

(旧阪神エアカーゴ(株))

会社代表者並びに会員代表者:

代表取締役社長 小島 弘

フランクフルトブックフェア (FBF) 2009 の感想

【営業部員が感じた FBF】

洋書の仕事に携わるようになってから 20 年目にして初めて FBF を訪れました。かつては大学の図書館や教授陣を、現在は書店外商部を顧客先として営業一筋でしたので、FBF は仕入業務部門の専売特許だから縁がないものと思っていました。今回 FBF へ行ってみて、日頃理屈で理解しているつもりでも、国内で本を売っているだけでは感覚的に分らなかった出版社の日本市場に対する思いを感じられたのが何よりの収穫でした。西欧の世間的な感覚では鳩山首相の名前など知らないのが普通でしょうが、どの版元も日本の新政権とその学術洋書市場への影響を気にかけていました。4 日間の短期間にももらった名刺の厚みが 3 センチになるほどの出版社の方々とお会いして、英語書籍市場の中心はインドゲルマン語諸国でありながら、不景気にあえぐアジア東端の辺境もどうして大した関心事なのだと実感しました。同時にそうした日本の市場状況を的確に把握し、その上でどのような見通しが立つのかを自らの言葉で表現できなければいけない事も感じました。国内での自己完結的な売上げを達するための日常業務の枠組みに海外からの視点を加えてもらいました。なぜこの本はもっと日本で売れないのか、読者がいないのか、という問いかけに営業部員として 1 年をかけて出版社に答えを出していくという視点ももらいました。そしてもうひとつ、出版社からしてみれば日本国内の業者はもっと協調すべきところは協力して洋書市場全体を盛り上げていくことを期待しているように感じました。

今回訪問した出版社の共通のキーワードは e-book と Print on Demand (POD) でした。奇しくもアマゾンキンドルの発売が FBF の 1 週間前 10 月 7 日から日本で開始されていました。オンラインジャーナルの日本市場における導入は落ち着きをみせているようで、これからいよいよ e-book の導入が活性化する気配です。どの版元も日本市場への足掛かりを模索しているようです。また POD がコスト面での実用性が高まったとみえて絶版・品切れ中の自社出版物の POD による再販を企画している出版社がありました。出版資源の有効活用は出版社に利があるだけでなく、時代の変化に耐え得る可能性のある埋もれた良書が再び陽の目を見るよき機会だと思います。

また「去年の FBF 以来ですね」と、日本では日頃の忙しさにかまけて会えていなかった業界の人と 1 年ぶりに FBF で挨拶を交わしている場面は、FBF をとても身近なイベントに感じさせる一幕でした。

【不景気】

ブックセラーによると今年は入場者数が過去最高だっ

た 2008 年と比べ 2.9 パーセント減で史上 2 番目だったそうです。初めて参加したのでこれまでの印象と比べようもないのですが、「ホール 8」はサブプライムショックの影響のためかアメリカの出版社の出展が減ったため、他のホールと比べて空いていたように感じました。出版社のパーティもブースでのカジュアルな立食スタイルが主流となり、ホテルのレストランなどを借り切ることも減ったそうです。時計の短針が午後 5 時をまわる頃になるとあちこちのブースに人だかりができグラスを合わせる音が聞こえてきました。かつて FBF の開催中は空席を探すのに骨を折ったという市街地のレストランは週末の夜でもお客のいないテーブルが目立ちました。

【ドアと人情】

各ホールは建物と外部を仕切るドアと、その出入り口と通路を兼ねたスペースとホール内を仕切るドアの 2 重扉になっています。ドアの枠は鉄製で大きさは 1 畳半ほどあり標準的な体格のアジア人には向かい風でもあると開けるのにちょっと苦勞する重さがあります。ホールからホールへ移動する場合このドアを都合 4 回開けることになり、何度も行き来すると結構煩わしく感じます。だからといって自分が開けたドアの後を気配りしないのはマナー違反です。どんなに急いでいても自分の後から続いている人がいないかを確認し、いればその人の手がドアの届くまで開けて待ちます。向かい側から来る人があればまずは譲ってみます。「ありがとう」、「どういたしまして」。ささやかなコミュニケーションが生まれます。こうした積み重ねが人格形成に大事だと思いました。当たり前といえばそれまでですが、近年日本ではあまり見受けられなくなった光景のように思います。どこへ行っても自動ドアがあるのも原因ですが、何より他人の事は知ったことではないといった振る舞いの方が目に付く昨今です。電車の乗降や雑踏でぶつかっても挨拶ひとつもない風情のない社会に日本はなってしまったようです。

【終わりに】

今回は諸般の事情で FBF へ行けなくなったスタッフのピンチヒッターとして急遽参加することとなりました。行きの機内からデッドボールが飛んで来なければいいが、と心中穏やかではありませんでした。案の定 FBF の印象はインハイの高速ストレートで、ヒットは打てませんでした。どうにか送りバントはできたかなという感想です。

最後になりましたが、この場をお借りして現地でお世話になった方々にお礼を申し上げます。ありがとうございました。
(Cambridge UPS 保坂 隆)

フランクフルト・ブックフェア 2009 見聞録

今年は折しもベルリンの壁崩壊から20年、ドイツ各地で20周年の記念イベントが企画されております。この記念すべき年に私はユサコに勤務して初めての海外出張でドイツを訪問することとなりました。記念イベントはさておき、10/14～10/18まで開催されたフランクフルト・ブックフェアは、海外からのビジネスマンにとっても、地元住人にとっても年に一度の一大イベント。ドイツ国内では連日ラジオやテレビなどのメディアで様子が伝えられていたようです。

私にとってのドイツは、学生時代ライブツィヒに留学していたこともあり思い入れがある国です。ドイツを訪れると思うのですが、本当にドイツ人は「本好き」が多い気がします。ドイツの書店で、店内のディスプレイや美しい装丁本を見るのは楽しく「本好き」の国ならではの随所で感じます。またドイツでは日本のマンガも根強い人気があります。留学していた当時ライブツィヒ・ブックフェアで日本文化紹介のお手伝いをした際に、ドイツ人コスプレイヤーに囲まれワイワイと話したことも良い思い出です。

フランクフルト・ブックフェアの会期最終二日間の一般公開日は、企業同士の商談はほぼ終わっているとも聞きますが、市民の入場によって入場者数が増えるようです。フランクフルトは海外からのアクセスも良いので、世界最大規模の書籍見本市があるというものなるほどだと思います。今年は、5日間で約29万人の来場者が訪れました。

まず初日、交通機関S-Bahnから見本市の駅に降り、目的のHallまでが遠く敷地内の規模の大きさに驚きました。HallとHallをつなぐ通路には、フェアの特集記事を配る新聞社のスタッフが掛け声をかけていて活気がありました。Hallによっては3階建てもあり、各階のフロア内も広く横切るのも時間がかかり、行き来に10分ほどかかりました。会期中は、学術出版機関が集まったHall.4.2と国際をテーマとしたHall.8.0を中心に出版機関と30分から1時間刻みで打ち合わせを行いました。Hall間を一日中急ぎ足で行き来していましたので、仕事後のドイツビヤは本当に心身に沁み入りました。

このブックフェアでは世界各地の出版業界に関連する企業や機関が出展しており、国際色豊かでした。日本にも伝統色があるように、ドイツブースはドイツならではの色味があり、デザインも洗練されていると思います。2009年は中国が主賓国であり、中国ブースのディスプレイは豪華でした。欧米の人にとっては、漢字表記のディスプレイがクールに映ったかもしれません。どこのブー



一番左が筆者

スも出展者のカラーが出ており、展示にも工夫があり興味深いものでした。夕方5時以降になると仕事を切り上げているブースが多くなり、その後は多くのブースでビール、ワインなどがふるまわれ、またにぎやかになります。

当初、海外の学会、学術出版機関の方々と打ち合わせをするということで緊張しましたが、その一方で日ごろはメールのみでやり取りをしている方々に直接お会いできるという楽しみもありました。実際その人達にお会いし、握手を交わして、仕事話をし終わると、本当に距離感が縮まったことを実感できました。最終的に一般公開が始まる前の3日間で、数十社と打ち合わせを行うことができました。参加者の多くに聞いても、これだけたくさんさんの出版機関と短い期間で意見交換が行えるというのは、フランクフルトならではのことで、出展者にとっても自社をアピールするまたとない機会ということがよくわかりました。どの参加者もフランクフルトのブックフェアで実りの多い収穫を得たのだと思います。私自身も今回初めての海外出張で、反省点や今後の課題がありますが、非常に良い経験となりました。

今後はこの出張で得た成果・経験をもとに、各出版機関との課題に取り組みたいと思います。

因みに2010年は10月6日から10日に開催され、主賓国はアルゼンチンとなっております。

(ユサコ株式会社 佐々木陽子)

音楽は3万5千年も前からあった、楽譜は？

アカデミア・ミュージック(株) 平岩 寧

音楽って何だろう？ 何時ごろから存在したのだろうか？ つい先日といっても6月になりますが、朝日新聞にこんな見出しの記事がありました、「教えて古代の音色」の見出しで次のように写真入で出ていました。

古代人は3万5千年以上も前にフルートを演奏し音楽を楽しんでいた……。

独チュービンゲン大学のチームは独南西部ウルム近郊のホール・フェルス洞窟など二つの洞窟で、鳥の骨でできたほぼ完全なフルートやマンモスの牙でできたフルートの破片を発見した。世界最古級とみられる音楽の広がり示す貴重な証拠だ。24日付英科学雑誌ネイチャー（電子版）に発表する。

もっとも完全な形で出土したのは、はげワシの骨でできたフルート。12の破片にわかれ、つなぎ合わせると長さ21.8cm、直径約8ミリのほぼ完全な楽器になった。五つの指穴があいており、広い音階を持っていたらしい。地層の年代などから3万5千年以前のもものと結論づけた。ホール・フェルス洞窟では同じチームが5月、人類最古のマンモスの牙でできたビーナス像を発見同誌に報告している……。

ここまで読むと次はどんな演奏の仕方をするのか？ 音色は？ 本当に演奏することができたのかしら？ 等等など追いかけてくなりますが、それはあとにしておいて…、日本で音楽というものは何時ごろからあったのかしら、少なくともドイツでは楽器の発見で3万5千年前に存在していたであろうということが実証されたわけですが、日本ではどうでしょうか、神話では天の岩戸の前で音を出して岩戸を少し開けた所をこじ開けて天照を外に連れ出した云々と伝えられていますから、それより以前であることは間違いではないと考えることはできます。私はついに、ガクフ（楽譜）についてなにかを書かなければならない羽目になりました、そこで冒頭のように考えこんでしまいました。

音楽とは何か、何時ごろ生まれたのであろうか、音

楽の起源については18世紀から19世紀にかけて理論立てて研究が始まったようです。人間が社会生活を始めた頃からだろうと思います、自分の意思を他人に伝えること、それはお祈りであり、喜び、愛を、悲しみを伝えること、労働の促進（喜び、辛さ）を声・動作（言葉、器具）で音を出して知らせることから始まったと考えられます。

現在、音楽といえば西洋音楽を指すことが一般的になっていると思います。ではその西洋音楽とは、楽器、楽譜は何時ごろ日本に到来したかということになります。一般的には、幕末から明治にかけてだと思われているのではないのでしょうか。徳川幕府の終わりの頃、近代武装と訓練を受けた薩摩・長州の軍隊が錦の御旗を押し立て、倒幕の進軍をした時の行進曲、ピーヒャラ・ドン・ドン・ドン「宮さん、宮さんお馬の前にヒラヒラするのは……」[大村益次郎他作曲]が最初に西洋音楽の方式で演奏されたことから、ヨーロッパ音楽の到来が明治維新（1868）の頃と云うイメージが定着してしまったようです。しかし事実は幕末明治よりも三百年も前に到来していたのです。それは徳川家康が日本統一をするより以前のことで、織田信長も豊臣秀吉も西洋（ヨーロッパ）音楽を鑑賞していたのです。

歴史的には天文18年（1549年）8月にキリスト教宣教師が鹿児島に到着しました、その宣教師の名前はフランシスコ・デ・ザビエル（Francisco de Xavier, 1506—1552）でした。

サビエルは鹿児島から長崎の平戸を経て上洛し、1551年（天文20年）2月には大内義隆の領地、周防山口に入り、大内義隆に弦楽器（？）を献上している。その年の1551年9月には豊後の大友義鎮に招かれ府内（現在の大分市）に入って布教活動を行い翌年には中国に移動しその地で没した。ザビエルの来日以後多くのキリスト教宣教師が日本に来て布教活動を積極的に始めました、その成果として、教義が日本人に受容れられ多くの人々がキリスト教に改宗したようです。

（続く）

図書館情報学分野の必須レファレンスの最新版!

図書館情報学百科事典 第3版

Encyclopedia of Library and Information Sciences 3rd edition

Edited by Marcia J. Bates and Mary Niles Maack

2009年12月刊行予定., Hard.

ISBN 978-0-8493-9712-7

STP1,911.00 / 通常価 ¥461,617 / 特価 ¥369,294 [税込]

本書は、図書館学のみならず「情報」に関するあらゆる学問分野の必須レファレンスとして知られるEncyclopedia of Library and Information Scienceの新版です。著名な研究家・実務家による論文を収録した本百科事典は、情報および文化的記録に関する多様な分野の研究成果を網羅しています。諸分野を横断して存在する共通の問題に着目するとともに、各分野に固有の特徴も論じています。

図書館情報学をはじめ、情報学、博物館学、知識経営など様々な分野の必須レファレンスとして、本書をお薦めいたします。

【本書の特長】

- ・ 精確なレビューを経た何百もの論文を収録
- ・ 収録内容の70%以上が新規の内容
- ・ 歴史的・理論的に重要な価値を持つ古典的な論文は、旧版から引き継いで収録
- ・ 30カ国以上の文化機関を調査

(CRC Press, USA / 指定代理店: 丸善)

 **MARUZEN**

丸善株式会社

〔教育・学術事業本部〕〒103-8244 東京都中央区日本橋3-9-2 第二丸善ビル

☎(03) 3273-1074 <http://www.maruzen.co.jp/> 振替: 00170-5-5

営業拠点= 横浜・千葉・八王子・大宮・筑波／札幌・盛岡・仙台・名古屋・岐阜・浜松・金沢・京都・大阪
神戸・岡山・松山・広島・福岡・長崎・熊本・沖縄／ニュージャージー・ロンドン

JAPAN PUBLICATIONS TRADING Co., LTD 日本出版貿易株式会社



ブルース・ロジャースのTOEFL Test iBT 完全攻略パック スピーキング編！！

英語試験対策で著名なブルース・ロジャースによる最新著書
“Complete Guide to the TOEFL Test iBT”のスキル別攻略本が
初登場。

iBTより導入されたスピーキング強化に最適の自主学習書です。

- * 発音強化のコツを詳細に説明
- * 2種類のスピーキング完全模擬テストをCD-ROMに収録
- * 自己学習用CD-ROMで確実なスキルを習得
- * 4枚のオーディオCD、スクリプト、自己学習用CD-ROM、解答付で充実の内容

ISBN:978-4-88996-262-8

価格：¥3,990-（税込）、3,800（本体）



ブルース・ロジャースのTOEFL Test iBT 完全攻略パック ライティング編！！

英語試験対策で著名なブルース・ロジャースによる最新著書
“Complete Guide to the TOEFL Test iBT”のスキル別攻略本が
初登場。

日本人が苦手とするライティング強化に最適の自主学習書です。

- * ライティングに必須な文法力を強化
- * 日本人が苦手とするライティングの攻略法を丁寧に指導
- * 2種類のライティング完全模擬テストをCD-ROMに収録
- * 自主学習CD-ROM、オーディオCD1枚、解答付

ISBN:978-4-88996-263-5

価格：¥3,990-（税込）、3,800（本体）



“もっとも影響力のある週刊誌”

1923年創刊。発行部数540万部。世界176カ国で延べ約3,000万人が目を通す世界最大の英文時事週刊誌「TIME(タイム)」。政治、経済、のみならず、文化、エンターテインメント、様々な分野をグローバルな視点から鋭く切り込む世界のオピニオンリーダー。
(本体¥800-/税込¥840-)



“もっとも影響力のあるメディア”

1922年9月、アメリカにて創刊された外交・国際政治専門誌。外交・国際政治関係の雑誌として最も権威があるとされており、その時代を代表する外交・国際政治や国際経済に関する論文が発表される場として度々選ばれるなど、世界的影響力をもつとされる。
(本体¥2,000-/税込¥2,100-)

TIME、Foreign Affairsを始めアメリカ・フランスを中心に約500タイトルの洋雑誌の取り扱いをいたしております。
洋雑誌に関するお問い合わせは弊社営業2課まで。

取扱出版社

ELT-----Cengage Learning, Pearson, Macmillan Languagehouse, Oxford UP, Cambridge UP
On Japan---タトル出版, 講談社インター, JTB, JOIE, Japan Times, 日貿出版
日本語教材---凡人社, ジャパンタイムズ, 講談社インター, スリーエーネットワーク, アスク
PaperBacks---RandomHouse, Simon&Schuster, Harper Collins, Penguin, Pan Macmillan

日本出版貿易株式会社



本社 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-2-1
TEL:03-3292-3755 FAX:03-3292-8766
URL: http://www.jpjtc.co.jp

国内営業一部営業一課(書籍窓口) TEL:03-3292-3755

営業二課(雑誌窓口) TEL:03-3292-3767

大阪営業所 TEL:06-6886-7176

九州営業所 TEL:092-651-3785